

1. 活動名 野菜パーティーをしよう!

2.

3. 子どもの姿と読み取り

・年長だけの行事“年長 DAY”で大事に育ててきた野菜をみんなで調理して食べる“野菜パーティー”をしたいという思いを出発点に、何をしたいか、どうしたら実現できるか、クラス全体で相談してきた。「野菜だけでなくお肉も焼きたい!」「お肉を買いに行きたい」と、自分なりの思いや考えを出会い、「それいいね!」「味噌汁も作ったら?」と、友達の考えを認めたり、友達の思いをきっかけにさらにアイデアを出したりする姿が見られた。自分の思いや考えを伝える楽しさや、受け止めてもらえる嬉しさ、そこから形になっていく喜びを味わっているようだ。

・おにぎり屋さんごっこでは、屋根を作ろうと布を持ってきて、持つ人、洗濯バサミで止める人指示を出す人など、自然に役割を分担し、声をかけ合いながら協力してお店を作っている。野菜の水やりでは、休んでいる子がいることに気づいて、その子の分も進んで水やりをしている。ホースが絡まるとホースを伸ばしに行ったり、蛇口をひねりに行ったり、自然に声を掛け合って協力して動いている。また、粘土を野菜に見立てて包丁で切る練習をし、手を切らないように指先を丸めて切ったり、当日も、友達が野菜を切る様子をよく観察してから真似をして切ったりしている。自分にできることに気づいて動いたり、不安なことも自分で工夫して乗り越えようとしていたりしている。自分なりに工夫したり役割を見つけたりして楽しんでいるようだ。

・大型積み木で、家を作り、気の合う友達同士で、イメージや目的を共有し、遊びを広げてきている。場が広がってくると、楽しそうな様子に新たに加わる姿も見られ、「ここは、寝るところってこと?」と前からいた友達にそのイメージや思いを聞きながら、遊びに参加し、友達関係が広がってきている。友達関係が広がってきたことで、いろいろな意見に触れることが増え、思いの違いからトラブルも増えてきているが、遊びが広がってきている。また、年長 DAY の野菜パーティーの話合いで、包丁を使ったことがないから料理ができないかもしれないと不安を口にする友達に対して、おまごごとで練習することを提案したり、おうちの人の様子を見るといいのではないかと伝えたりする姿があった。また、家でお母さんは自分が寝ている間に料理をしているので見るができないと話す子がいた時には、給食を調理する様子を見に行くことを提案する声が上がった。自分の思いや不安を出しつつ、いろいろな友達の考えや思いに触れながら遊ぶことを楽しんでいるようだ。

4. 目指す子どもの姿

- ・自分で考え、自分で行動する。
- ・多面的な視点から考え、思考を広げて深める。
- ・粘り強く取り組み、失敗してもやり遂げようとする気持ちをもつ。
- ・友達と共通の目的を見出して協力して取り組む。
- ・身近な地域の人と関わりを広げる。

5. 活動の目標(ねらい)

- ・クラスでの話し合いや活動に進んで参加し、自分の思いや考えを出しながら形にしていく喜びを感じる。(自分から)
 - ・友達と共通の目的に向かって、自分なりに工夫したり役割を見つけたりして楽しむ。(創造する)
 - ・同じ目的や思いをもつ友達の考えに触れ、互いの思いを聞き合いながら遊ぶことを楽しむ。(人とともに)
- 身近な食や活動を通して、人やもの、場所がつながっていることに気づき、自分たちの考えや行動が周りに影響することを感じながら、活動に参画しようとする。

6. 評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
① 野菜の栽培や調理に関わる経験を通して、基本的な知識や扱い方を身につけている。	① 「何をしたいか」「どうしたら実現できるか」を自分なりに考え、言葉や行動で表している。	① 自分の思いや考えを大切にしながら、活動に意欲的に関わろうとしている。
② 活動に必要な道具や素材の特徴に気づき、適切に使おうとしている。	② 友達の考えや状況を踏まえながら、よりよい方法を選んだり工夫したりしている。	② 友達と共通の目的をもち、役割を意識しながら協力して取り組もうとしている。
③ 生活や遊びの中で経験してきたことを、野菜パーティーの活動に結びつけている。	③ 活動の中で起こる問題や困りごとに対して、試したり話し合ったりしながら解決しようとしている。	③ 失敗や不安があっても、工夫したり助け合ったりしながら最後まで取り組もうとしている。

7. 環境構成

・活動内容の設定理由

苦手な食べ物が多く、野菜を食べられない子どもがおり、みんなで育てたり調理したりする経験を通して、食への興味を高め、苦手な食べ物にも挑戦してほしい。

・教材について

子どもたちと相談しながら、自分達でやりたいと思ったことが実現できるように意見を出し合いながら、衛生面やみんなの意見と折り合いをつけて活動を展開できるようにする。

・展開の工夫

生き物が相手なので、どんなに頑張ってもうまくいかないことやトラブルが起こることがある。うまくいかない経験やトラブルも学びのチャンスとして、子どもたちと相談しながら展開していけるようにする。

8. ESDとの関連

・活動を通して養いたい ESD の視点

連携性(力合わせて)

- ・年長 DAY に向けて、「何がしたいか。」「どう準備するか」をクラス全体で話し合い、友達の意見を受け止めながら力を合わせて目的を実現する喜びを感じてほしい

責任性(責任を持って)

- ・自分で選んだ役割(調理、準備、水やり、片付けなど)に取り組み、途中で困ったことがあっても工夫したり助けを求めたりしながら続けようとする。
- ・包丁や道具を安全に使うことを意識し、「自分が使うからこそ気をつける」という姿勢で行動する。
- ・育ててきた野菜を大切に扱い、無駄にしないようにしようとする。

・活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

他者と協力する態度

- ・野菜パーティーに向けた話し合いの中で、友達の意見を受け止め、「それいいね」と認めながら内容を広げていく。
- ・調理や準備の場面で、切る人・支える人・見守る人など、それぞれができることを見つけ、声を掛け合って活動を進める。
- ・困っている友達に気づき、練習や見学を提案するなど、互いに支え合いながら参加する方法を考える。

つながりを尊重する態度

- ・育ててきた野菜を「みんなで大事にしてきたもの」として扱い、無駄にしないようにしようとする。

- ・家庭での料理の話や給食を作る人の存在に関心を持ち、見学や話を聞くことを提案する。
- ・年長 DAY という行事の中で活動することを意識し、園全体とのつながりを感じながら取り組む。

進んで参加する態度

- ・「やってみたい」「こうしたい」と自分の思いを言葉にし、話し合いに参加する。
- ・自分で役割を見つけたり、必要なことに気づいて動いたりする。
- ・不安や苦手さがあっても、友達の姿を見たり工夫したりしながら挑戦しようとする。

・ESD で育てたい価値観

自然環境・生態系の保全を重視する

野菜を育てる体験を通して、自然の営みや命の循環に触れ、育つには土や水、太陽などが必要なことに気づき、自然の恵みに感謝する。

何も植えられていなかったテニスコートの園庭に野菜やコキアを植えたことで、バッタやちょう、カナヘビなどの生き物が集まり、環境の変化によって生態系が生まれることを実感する。

- ・野菜が育つ過程を見守る中で、自然と人の関わりが環境をつくっていることに気づく。

共生

人だけでなく、生き物も同じ環境の中で生きている存在であることに気づき、どう折り合いをつけながら共に生きていくかを考えようとする価値観を育てる。

- ・大切に育てた野菜が動物に食べられた経験から、「困った」「悔しい」という気持ちと同時に、「でも、アライグマも生きている」「かわいそう」という思いが生まれる。
- ・対策を考える中で、「守ること」と「排除しないこと」の両方を考え、命との向き合い方を話し合う。

幸福感・ウェルビーイングを重視する

自分たちが大切に育ててきた野菜を、仲間と共に調理し、味わう体験を通して、心も体も満たされる喜びや、人と分かち合う豊かさを感じる価値観を育てる。・みんなで育て、みんなで食べることで、「おいしい」だけでなく「うれしい」「一緒に楽しい」という気持ちを味わう。

- ・アレルギーや好みを考えながら、誰もが楽しめる調理の仕方を考え、みんなの安心や満足につながる選択を大切に

・貢献できる SDGs

2. 飢餓をゼロに

食べ物の大切さや食料の生産・消費への関心を育む。・土や水、太陽の力、世話をする人の関わりがあって野菜が育つことを実感する。

- ・自分たちで育てた野菜を食べる経験から、「食べられることは当たり前ではない」と感じる。
- ・食べ物を大切にすることが、世界の誰かの食につながっているという視点の芽生えにつながる。

12. つくる責任つかう責任

生産と消費のつながりを体験し、食べ物を無駄にしない、感謝していただくことを通して持続可能な消費行動への価値観を育てる

- ・「いただきます」「ごちそうさま」の意味を、体験を通して実感する。
- ・動物に食べられた経験を通して、「守ること」「分け合うこと」「無駄にしないこと」を考える。

9. 展開



市内循環バスに乗って
苗を買いに行く



野菜を育てる



動物に食べられた!?



何の生き物が特定しよう!



網をして食べられないようにしよう!

アライグマのための分を
置いておこう!



大成功!たくさん収穫できた!



調理の仕方を教えてもらう

自分で育てた野菜を収穫して、何個(何本)とれたか数えていった!
数への興味・関心も高まって一生懸命数えたり比べたりしていた。

野菜パーティーをしよう!



収穫する



みんなで食べる

肉を買いに行く!

調理する

年長 DAY”野菜パーティー”

日時 7月17日

対象 年長児

子どもの活動	保育者の環境構成と援助
<ul style="list-style-type: none"> ・持ってきた米を集め、炊いてもらう。 ・野菜を収穫する ・肉屋に肉を買いに行く ・野菜を洗う・切る ・肉と野菜を焼く ・梅ジュースで乾杯する ・食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お米といっても、つき方や品種によっていろいろな色や形があることを知らせ、持ってきたみんなのブレンド米で炊くご飯を楽しみにできるようにする。 ・今まで大事に世話をしてきた野菜の成長と一緒に実感しながら収穫する喜びに共感する。 ・標識や信号などに自分で気づいて行動できるように、励まし、支える。 ・地域の方に保育者から進んで声をかけ、地域の人に親しみを感じられるようにする。 ・グループごとに洗ったり切ったり見たりできるように、場を設定し、お互いに見合いながら見通しをもって落ち着いて取り組めるようにする。 ・火傷をしないようにホットプレートを配置する。調理員さんに教えてもらった85℃がわかりやすいような温度計を用意し、子どもたちと一緒に確認できるようにする。 ・肉の焼けるいい匂いやご飯の炊ける匂い、美味しそうな野菜の色など一つ一つをじっくり楽しめるように声をかける。

9. 振り返り記録

○野菜の収穫

・当日は、雨だったが、朝から「今日はパーティーだね」「早く野菜とりに行こう」と期待をもって登園し、活動に進んで参加する姿が見られた。

・園庭で野菜を収穫する際、雨の中育ててきた野菜を丁寧に収穫し、「食べるの楽しみ!」「大きくなってる」と、成長を実感する声が聞かれた。

○お米を集める

・お米を入れる様子を熱心に見つめ、「あ、俺のや!」「なんか色が違うな!」

「美味しくなるかな?」と楽しみにしていた。



○肉屋に買い物に行く。

・雨の中、傘をさしながら一列になり、周囲の様子に気を配って肉屋まで歩いて行った。友達同士で間隔を確かめ合いながら、安全に歩こうとする姿が見られた。店に入ると、「こんにちは」「お肉ください」と自分たちで声をかけ、少し緊張ながらもやり取りをしていた。雨天の中でも約束を守って歩いたり、店の人に自分たちで挨拶や用件を伝えたりする中で、公共

の場を大切に使い、自分たちの行動を意識して生活しようとする姿が表れていた。また、「美味しい赤身のお肉にしといたよ!」と声をかけてもらうと、「やった!」「楽しみ!」と期待を膨らませていた。野菜パーティーという共通の目的に向かって買い出しを行う中で、友達と気持ちを共有し、「楽しみ」という思いを高め合う姿が見られた。また、初めて肉屋に入る子もあり、店内の様子や並んだ肉を見回しながら、興味をもって観察していた。買い出しを通して、食材が人の手によって準備され、地域の店から届いていることを実感し、自分たちの生活が人や社会とつながっていることに気づく姿が見られた。

○野菜を切る

・手伝いに来てくれた先生に包丁の使い方を教えてもらいながら、友達と同じ目的(野菜パーティー)に向かって、順番を守り、道具を大切に扱って野菜を切っていた。同じ目的をもつ友達の姿を手がかりに学び合い、一緒に活動を進める中で、目的を実現させる喜びを感じている様子がかがえた。包丁を使うことに「ちょっと怖いかも。ドキドキする!」と気持ちを言葉にしながらも、「やってみたい」という思いをもって挑戦し、慎重に手を動かす姿が見られた。「怖いけどやってみたい」という矛盾する気持ちを言葉にし、それを受け止められながら挑戦する経験を通して、自分の気持ちと向き合い行動する力が育ってきている。



・ホットプレートで肉や野菜を焼くと、立ちのぼる匂いに「美味しそう」「早く食べたい」と期待を高め、焼けていく様子をじっと見つめていた。肉や野菜の色が変わっていくことに気づき、「色変わってきた」「もうすぐかな」と、出来上がりを楽しみに待つ姿が見られた。自分たちで育て、調理した野菜であることから、これまで苦手だった野菜や初めて食べる野菜にも「食べてみる」と挑戦する姿があった。給食調理員に教えてもらった「85℃以上」を、担任と一緒に確かめながら、安全に食べられることを確認していた。育てた野菜を調理して食べる経験を通して、食べ物に自然の恵みや人の手によって支えられていることに気づき、作る人・育てる人への感謝の気持ちを持ち、残さずに食べようとする姿が見られた。

10. 成果と課題

○成果

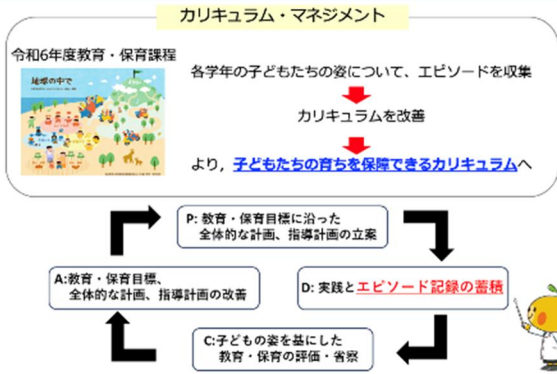
自分達でバスに乗って苗を買いに行き、育て、収穫し、食べるという一連の活動を通して、地域とのつながりを感じ、自然の営みや循環に触れ、育つには、土や水、太陽などが必要なことに気づき、野菜が自分たちの行動によって育つことを実感した。日々の水やりや観察を重ねる中で、友達と世話の仕方を相談したり、成長の違いに気づいたりする姿が見られた。育てている途中で、動物(アライグマかカラス)に野菜を食べられる出来事があり、子どもたちは驚きや悔しさを感じながらも、食べられた野菜の形を見て、「どんな動物なのか」「どうしたら守れるか」「網をかけたらいいのではないか」などを話し合った。また、「自分たちが食べるために育てている野菜を動物が食べること」についても意見を出し合い、人も動物も生きるために食べていることに気づく姿が見られた。収穫した野菜を味わう中で、「パプリカ初めて食べた!」「一生懸命世話したもん!」という言葉が聞かれ、苦手な食べ物に挑戦する意欲、命や食への感謝、自然とのつながりを体験的に学ぶESDの実践となった。

○課題

自然環境・生態系の保全を重視するという点で、野菜を育てる経験と、食べた後の循環を十分につなぐことができず、命の循環を体験することが今後の課題である。次回は、ダンボールコンポスト等を用いて野菜くずを土に戻す活動を取り入れ、食べて残った時には土に戻すことで次の命につながるという循環を実践することで、SDGs12「つくる責任・つかう責任」や、自然環境・共生の価値観をさらに深めていきたい。

11. カリキュラムマネジメントとして

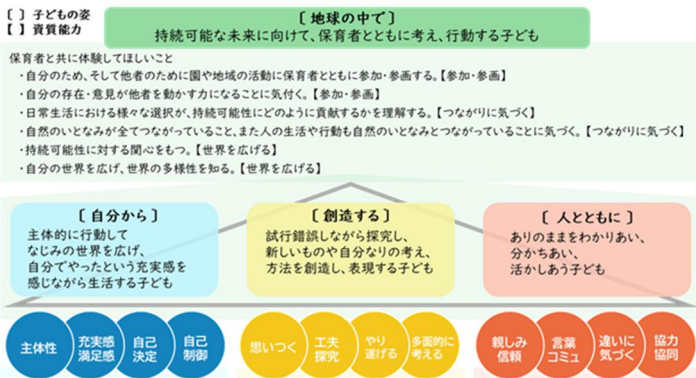
カリキュラム・マネジメントの過程



カリキュラム・マネジメントにおけるPDCAサイクル



教育・保育目標



時期・	II期(5月中旬~7月)	
子どもの姿	園のリーダーとしてのいろいろな役割や活動に取り組み、自信につながっている。 クラスの中で自分の思いを安心できる声に出せるようになってきている。 クラスでの共通の目的に向かって話し合い、積極的に参画する。 気の合う友達同士との繋がりがより強くなり、遊びのイメージや目的、おもしろさを共有する。 クラス全体で生活をもとにしている意識が芽生えてきている。 水遊びやプール遊びへの関心が高まり、友達と一緒に挑戦しようとする姿が見られる。また、水の楽しさとともに危険にも気付く、友達や自分の安全を考えて行動しようとする。 遠足や園外活動を通して地域社会や地域の環境への興味や関心が高まる。 空想の世界が広がり、それを言葉や制作で表現する楽しさや広がりが。 ひらがなや文字を書くことにも関心が出て、それを遊びに取り入れる。すらすらと読める子もいる。	
ねらい	基礎となる体験	興味・関心 興味関心をもってさまざまな環境(ひと・もの・こと)に関わり、園生 安心・安定(情緒の安定) 自分の思いや考えを保育者に受け止められながら、活動に意欲的に参加する。 健康安全(生命の保護) 水分補給や汗の拭き取りなど、夏季の健康衛生に自ら気を付けながら過ごすこととする。 水遊びの危険や事故について学び、安全な行動をとれる。
	ねらい	地球の中で 遠足を通じて、地球上に住むさまざまな生き物とつながりを感じ、また、人間の活動が環境に及ぼす影響について理解する。また、自分たちには何が出来るのかを考えて行動する。 買い出しを通じて、人や社会、環境に配慮した消費行動(エシカル消費)について、話し合う 自分から みんなで使う物や公共の施設を大切に使用することを理解して生活をする。 声をかけ合いながら、自分たちの生活を自分たちで進めていく。 創造する 野菜を予測して試したり工夫したりすることを繰り返し、よりよいものを目指して粘り強く取り組む。 時間をかけて丁寧に制作等に取り組み、作品をつくり上げる。 数や図形、文字などを楽しみながら遊びや生活に取り入れる。
人とともに	同じ目的や思いを持つ友達と一緒に考え、目的を実現させる喜びを感じる。 怖いけどやってみようなど、自分の中にある矛盾する考えや気持ちを言葉にする。 包丁を使うことに対する不安を「ちょっと怖いかも」「ドキドキする」と言葉にし、友達の不安を聞いて、どうするか相談し、練習したり励ましたりしていた。不安を乗り越え、最後まで自分から取り組み、調理することができた。→連携性(力合わせて)、他者と協力する態度、進んで参加する態度	

II期のねらいと実際に見られた子どもの姿

- 買い出しを通じて、人や社会、環境に配慮した消費行動(エシカル消費)について、話し合う。(地球の中で)
 - ・野菜パーティーに必要な食材として肉を選び、地域の店の人とやり取りをする中で、食材が人の手によって届けられていることに気づく姿が見られた。買うことと使うことを結びつけながら、食材を大切に受け取り、無駄にしないように使おうとする意識が芽生えており、人や社会に配慮した消費行動につながる経験となっていた。→責任制(責任を持って)、つながりを尊重する態度
- 同じ目的や思いを持つ友達と一緒に考え、目的を実現させる喜びを感じる。(人とともに)
 - 野菜パーティーという共通の目的に向かって、友達と一緒に買い出しに行き、必要な食材をそろえることを楽しみにしていた。野菜を切ったり、焼いたりする場面で、友達の様子をよく見ながら順番を待ったり役割を意識したりし、同じ活動を進めようとしていた。自分たちで育て、準備してきた野菜や肉を友達と同じ食卓で味わい、「おいしい」「楽しい」と喜びを分かち合っていた。収穫した野菜の数を一緒に数えたり、「たくさんできたね」と言い合ったりし、みんなで取り組んできた成果を確かめ合っていた。→進んで参加する態度
- 怖いけどやってみようなど、自分の中にある矛盾する考えや気持ちを言葉にする。
 - 包丁を使うことに対する不安を「ちょっと怖いかも」「ドキドキする」と言葉にし、友達の不安を聞いて、どうするか相談し、練習したり励ましたりしていた。不安を乗り越え、最後まで自分から取り組み、調理することができた。→連携性(力合わせて)、他者と協力する態度、進んで参加する態度